

平成 29 年 3 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 29 年 3 月 30 日  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(370)9237  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463

### 今月のトピックス

- 1 インフルエンザの定点あたり報告数が流行警報解除基準値(10.00)を下回りました。
- 1 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

### 全数把握の対象

#### [3 月期に報告された全数把握疾患]

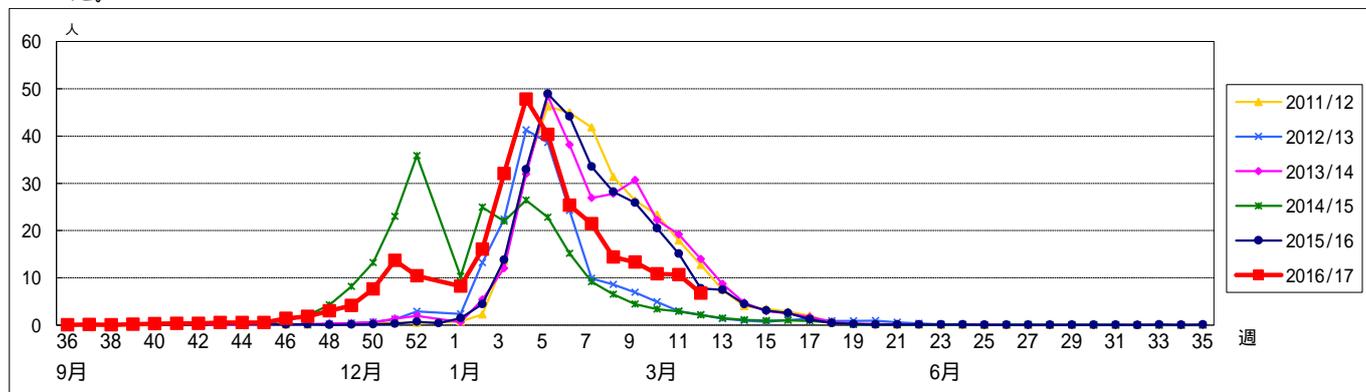
細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	8 件
E 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	13 件
レジオネラ症	3 件	梅毒	19 件
アメーバ赤痢	6 件	播種性クリプトコックス症	3 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件	風しん	2 件
急性脳炎	6 件	麻しん	2 件

- 1 細菌性赤痢:1 件の報告があり、国内での経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:タイでの経口感染と推定される O111 の報告が 1 件、エジプトでの経口感染と推定される O 不明の報告が 1 件ありました。
- 3 E 型肝炎:1 件の報告がありましたが、感染経路等不明でした。
- 4 レジオネラ症:肺炎型の報告が 2 件、ポンティアック熱型の報告が 1 件ありました。
- 5 アメーバ赤痢:6 件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路は、国内での性的接触が 2 件(異性間 1 件、同性間 1 件)、インドまたはバングラデシュでの感染経路等不明が 1 件、感染地域および感染経路等不明が 3 件でした。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎:6 件の小児の報告があり、迅速キットにてインフルエンザ A が 2 件、インフルエンザ B が 1 件、病原体不明が 3 件でした。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2 件が報告され、うち 1 件が G 群で、1 件は B 群でした。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):AIDS の報告が 2 件(同性間性的接触 1 件、感染経路不明 1 件)、無症状病原体保有者の報告が 5 件(同性間性的接触が 3 件、異性間性的接触が 2 件)、その他の報告が 1 件(同性間性的接触)でした。男性 7 件、女性 1 件でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症:13 件の報告があり、うち 1 件の小児についてはワクチン接種歴が確認されました。12 件(40~90 歳代)についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 11 梅毒:19 件の報告(無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒 期 4 件、早期顕症梅毒 期 9 件)がありました。国内での感染が 16 件、東南アジア(詳細不明)が 1 件、感染地域不明が 2 件で、男性 15 件、女性 4 件でした。感染経路は、異性間性的接触が 12 件、同性間性的接触が 1 件、詳細不明の性的接触が 4 件、感染経路不明が 2 件でした。
- 12 播種性クリプトコックス症:3 件の報告があり、いずれも免疫不全によるものと推定されています。
- 13 風しん:2 件の報告がありました。1 件は 60 歳代でインドでの感染と推定され、ワクチン接種歴は確認できませんでした。もう 1 件は 10 歳代の臨床診断例で国内での感染と推定され、ワクチン接種歴(2 回)が確認されています。
- 14 麻しん:2 件の報告がありました。1 件は 40 歳代で、タイでの感染と推定されています。もう 1 件は 20 歳代の修飾麻しんで、詳細については調査中です。いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

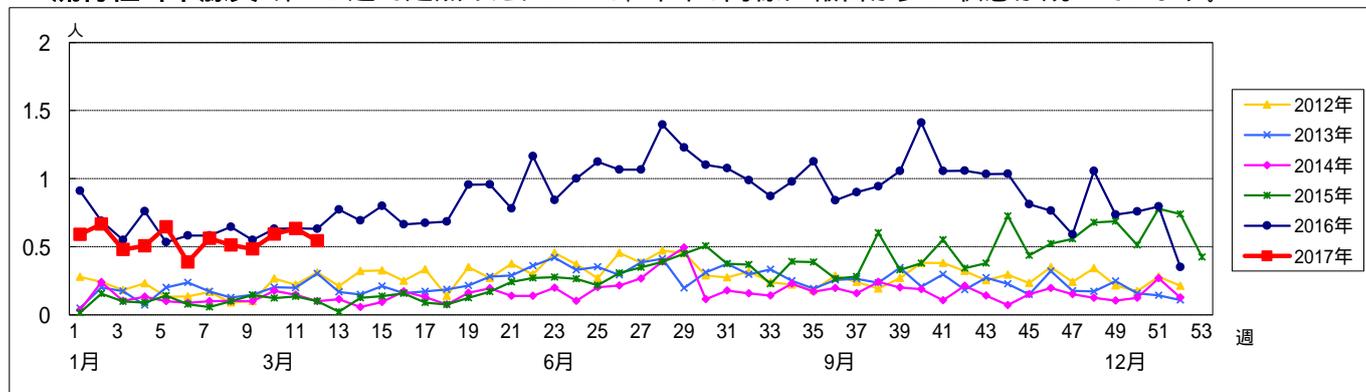
## 定点把握の対象

平成 29 年 週 - 月日対照表		
第 7 週	2 月 13 日 ~	19 日
第 8 週	2 月 20 日 ~	26 日
第 9 週	2 月 27 日 ~	3 月 5 日
第 10 週	3 月 6 日 ~	12 日
第 11 週	3 月 13 日 ~	19 日
第 12 週	3 月 20 日 ~	26 日

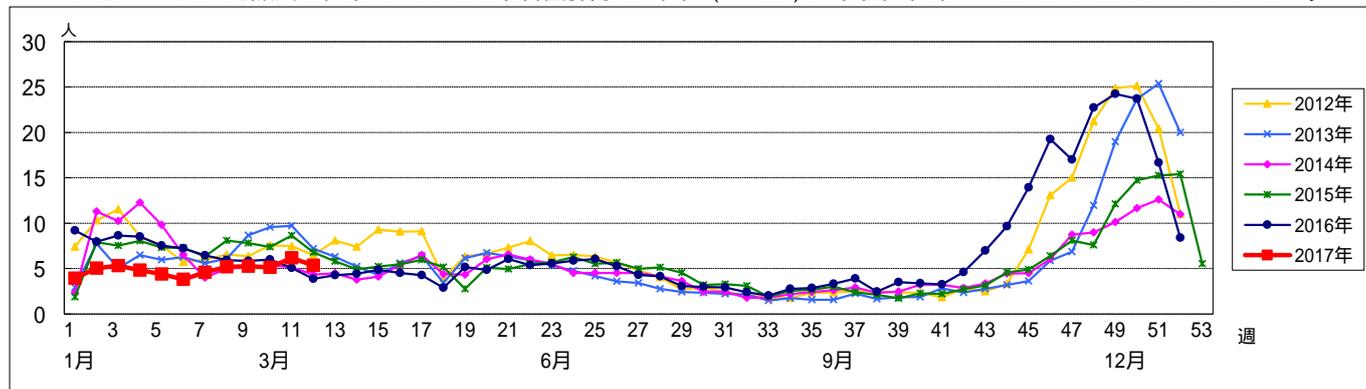
- 1 **インフルエンザ**:第 46 週で定点あたり 1.39 にて流行入り(目安:1.00)、第 51 週で 13.67 にて注意報発令(基準値:10.00)、第 3 週で 32.07 にて警報発令(基準値:30.00)となりました。第 4 週の 47.83 をピークとして漸減し、第 12 週で 6.76 にて警報解除基準値(10.00)を下回りました。



- 2 **流行性耳下腺炎**:第 12 週で定点あたり 0.54 と、昨年と同様に報告が多い状態が続いています。



- 3 **感染性胃腸炎**:第 48 週で定点あたり 22.73 となり、例年に比べて早く警報発令されました。第 49 週の 24.24 をピークとして漸減し、第 52 週には警報解除基準値(12.00)を下回り、第 12 週は 5.33 となっています。



- 4 **性感染症**:2月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が12件、女性が3件でした。

- 5 **基幹定点週報**:細菌性髄膜炎は第7週0.00、第8週0.00、第9週0.25、第10週0.00、第11週0.00、第12週0.00と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第7週0.75、第8週0.75、第9週0.50、第10週0.33、第11週0.50、第12週0.67と報告されています。インフルエンザによる入院は第7週2.75、第8週2.50、第9週2.75、第10週0.25、第11週1.25、第12週2.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第7週0.75、第8週1.75、第9週1.25、第10週1.67、第11週0.75、第12週0.00と報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

- 6 **基幹定点月報**:2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が6件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>